

トピックス

百歳プロジェクト健康ウォーキング



百歳まで長生きすることを目標とした「百歳プロジェクト健康ウォーキング」が昨年11月23日、渡辺町内において開催されました。

当日は天候にも恵まれ、J Aいわき中部女性部員、地域住民など45名が参加し、町内にある寺院や「中釜戸のシダレモミジ」などを見学しながら約10キロメートルのコースを散策しました。

「中釜戸のシダレモミジ」は国指定天然記念物で、樹幹がねじれ曲り、各所にコブをつくり、樹冠が傘上に広がっているという



見事なものであります。樹幹がねじれ曲がった姿は、カエデ本来の特性ではないため、大変珍しいそうです。

ウォーキング終了後は、渡辺町公民館においてJ A女性部員達がつくった豚汁や漬物が参加者に振舞われました。

参加者は「町内の名所や紅葉を見ながらのウォーキングは楽しく、本当に長生き出来そうだ。是非来年も参加したい。」と、楽しそうな感想を述べていました。

(執筆・撮影 佐川 良平 委員)

農家のための情報誌

全国農業新聞の購読をあなたも

発行・・・毎週金曜日(月4回)
購読料・・・月700円
申込先・・・お近くの農業委員
または農業委員会事務局
電話・・・(22) 7534

編集委員

荒川 光弘 草野 城太郎
飯高 敬一 渡邊 和夫 佐川 良平



水耕ミツバ栽培に情熱を注ぐ

今回南部地区からは田人町黒田赤仁田地区で水耕ミツバを栽培する齊藤清輝



さんを紹介いたします。以前、齊藤さんの父親が埼玉県に研修に行かれた際に、施設栽培により反当たり高収益を上げて農業経営をされている水耕ミツバ栽培を見学しました。

その後、黒田地区が新農業改善事業に認定されたのを契機に、J A 田人支店の協力をいただき、黒田野菜生産組合を設立し、昭和60年度新農業改善事業によりいわき市管内でいち早く水耕栽培プラントを導入いたしました。内容はガラス温室約二千㎡の水耕プラント一式で、事業費は約6千万円かかりました。



その頃の黒田地区では、水稲とこんにゃく栽培という栽培体系が主流でしたので、毎日収穫する出荷体系は、当時としては非常に珍しいものでした。導入後は年8作で、出荷量は40トンと目標どおりに達成して来ましたが、震災後は風評被害等により販売が低迷していることから、ミツバの他にサラダ菜、サンチュ、サニーレタス等の多品目栽培により経営を強化しながら、今後も水耕ミツバ栽培に情熱を注ぎたいとのことでした。

(執筆・撮影 荒川光弘委員)

編集後記

読者の皆様もご存じのとおり、現在国においては農業委員会の制度見直しを進めているところであります。

見直しの大きなポイントのひとつに、農業委員の公選制廃止が挙げられていますが、奇しくも今年7月には第14期農業委員の任期満了に伴う選挙が予定されています。この原稿を作成している3月現在においては、今後の見直しについて不明瞭な点が多くありますが、情報収集に努め、あらゆる状況に対応できるようにしたいと考えています。

さて、今年の4月から、農地台帳の公表が新たにスタートします。

これは、農地法の一部改正に伴い「農地台帳」の整備と公表が義務付けられ、市街化区域を除く全ての農地について、「どれくらいの農地がどこにあるのか」という面積や地番などの基本的情報を誰でも見られるようになることで、農地の有効利用を進めていこうというものです。特に全国農業会議所が管理・運営する「全国農地ナビ (<http://www.ais-ac.jp/>)」では、インターネット上の地図で農地の所在や所有者の意向など一定の情報を誰でも自由に見ることが出来るようになります。農地の活用がさらに進むと期待されています。(農地所有者の住所などは公表されません)

3月現在、農業委員会では農地情報の公表に関する作業の大詰めを迎えているところですが、農業委員会、たよりの発行に併せて、この場を借りて紹介させていただきます。